海外雄飛

# 私の履歴書

司憲 庵久栄 ㉑

三十代に入り、私は日本のインダストリアル・デザインの広告塔の役割を意識し始めた。昭和三十六年（一九六一年）にベニスで開かれた国際インダストリアルデザイン団体協議会（ICSID）の第二回総会に出席した。この国際組織は四年前に設立され、ストックホルムの第一回総会には恩師の小池先生が出席されていた。

ベニスの会議で仲良くなったのが、中国系でインドネシアからオランダに帰化したコーリャン・イーという人物だった。会議の委員で、オランダのスキポール空港のサインやカウンターなどインテリアデザインを一手に引き受けた。私より五歳年上だった。

帰りにアムステルダムに立ち寄ったら、オランダのインダストリアル・デザイナーを集めてパーティーを開き、ソサエティーの一員にしてくれた。すっかりオランダが気に入り、昭和六十一年にはアムステルダムに欧州市場の拠点としてグローバル・デザイン社を設立するまでになった。

## ロスに初の海外拠点

### 金策・外貨割り当て　汗流す

インダストリアル・デザインの領域拡大を目指し、昭和四十年九月、第一回日本インダストリアルデザイン会議（JIDC）を上野の文化会館で開いた。JIDA主催で、私が実行委員長になった。JIDAの会員以外の人たちもたくさん集め、各界から千二百人の参加者があった。テーマは「インダストリアル・デザインの今日の役割を探る」で、講演と分科会でのパネルディスカッション、展示会などを行い大成功だった。

この間、私の頭の中ではロサンゼルスに駐在員事務所を設けたい、という気持ちが強まった。留学の思い出もあるが、特にJIDCを開催したことで情報拠点として米国にしっかり布石を打っておく必要を感じたのである。

しかし、事務所を設置するのにお金がない。そこで、日本楽器に無心に行き、月々二十万円ほしいと言った。総務部長さんは「わけのわからないことにお金は出せない」と反対する。すると川上社長が部長に、「分かった。だが、栄久庵君がホンダに行ったら、君、責任取るかね」と言った。この一言でお金を出してくれることが決まった。

ところが、それだけでは外貨割り当ての許可がもらえない。日本銀行にお願いに行くと、取引している日本楽器とキッコーマン醤油の二社から、デザインで利益が出たという証明書を出してほしいという。両社とも「デザインのおかげで黒字になった」と証明してくれた。こうして昭和四十二年に駐在員事務所を開設することができた。

ロサンゼルスに設立した米国子会社GKDIの社屋

駐在員事務所の場所はロサンゼルスのサンタモニカ。水辺で環境がいいし、家賃も手ごろだった。私がロスに行く機会は多く、ロスに行く度にパーティーを開いた。集まりを催すことで人々と知り合い、地域のコミュニティーに参加する。GKの事務所はよくパーティーを開き、いけばごちそうが食べられる、それでいいと思った。目的は人と親しくすることで、仕事につながるという打算は全く考えなかった。

ロスの駐在員事務所は五年後に会社組織に格上げ、GKDI（デザイン・インターナショナル）社を発足させた。オートバイ、ウオーターヴィークル、全地形型走行車、スノーモービルなどのデザインで高い評価を得ている。

（インダストリアル・デザイナー）